日刊 動労千葉

85. 4. 11

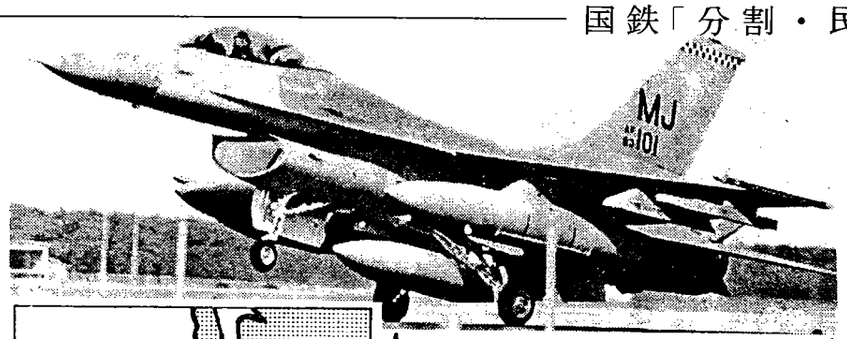
No. 1913

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公）七二〇七

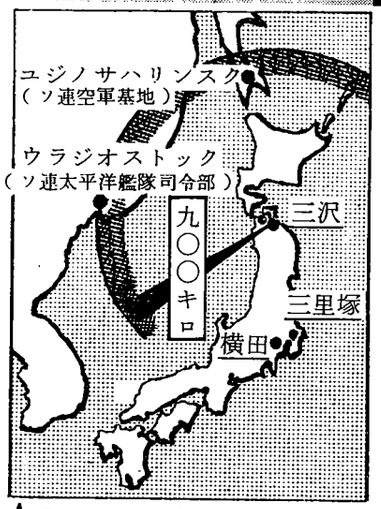
国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

日本―アジアを核戦場と化す F16三沢配備許すな

「GNP一%枠」突破の裏で何が進んでいるか



▲F16戦闘爆撃機。従来機の2倍近い核爆弾と核ミサイルを搭載。最終的には、53機もが三沢に配備される。



▲F16の行動半径900キロは、主要ソ連軍基地を射程内にすえている。

四月五日に成立した一九八五年度予算で、防衛費は遂に「三兆円」の大台を突破し、人件費のベア分を見込むと、「GNP比一%枠」を名実ともにつき破る歯止めなき大軍拡の道へとつき進むこととなった。体制的危機の突破を、国民生活のすべてをふみにじって、無制限の軍事大国化路線にのみ求めていく〝戦時体制型〟予算への転換が起きている。「戦後体制」「憲法」「一%枠」「非核三原則」「平和と民主主義」「反戦・反核」などという〝戦後的制約〟をつぎつぎととっぱらって、やりたい放題の戦争政策をどしどし強行するぞ、という中曽根の反動的な挑戦を絶対に許してはならない。今、われわれは、重大な岐路にたたされている。

世界最新鋭の核攻撃機＝F16の前線・実戦配備

四月二日、沖縄につづき、青森県三沢基地に米空軍のF16戦闘爆撃機3機が実戦配備された。

これは、82年日米防衛首脳会議での日本政府の配備承認に基づく先発第一陣機であり、ひきつづき今年夏までに24機が配備され「飛行隊」を編成、来年夏までには2飛行隊＝計53機という世界でも指折りの核・攻・撃・基地・へと三沢が変ぼうする。

しかも、直ちに、4月9日から30日まで三沢（天ケ森）射撃場で地・上・攻・撃・訓練に入り、これにほ・横須賀！厚木基地をベースとした空母ミッドウェーの艦載機等も合流し、夜間離発着および爆撃訓練を繰り返すと発表している。

レーガン―中曽根の核戦争挑発＝対ソ核攻撃基地

このF16戦闘爆撃機は、米空軍が兵器技術の粋を集めて開発した世界最新鋭の核攻撃機であり、常時核爆弾・核ミサイルを大量に装備し、行動半径九百キロとケタ違いに長く、敵地上基地攻撃と広範囲な制空圏確保を目的として現段階では世界の何カ所かに限られた対ソ最重要攻撃地点に限って実戦配備されているものである。今回の三沢配備は明らかにソ連の太平洋艦隊司令部のあるウラジオストック、さらにはサハリン（樺太）南部の主要ソ連軍基地を射程内におさめる完全な対ソ拠点核爆撃の出撃基地建設そのものである。

そして、沖縄の嘉手納、東京の横田（そして建設強行予定の三里塚二期）の「四千メートル滑走路」を使用してのB52戦略爆撃機体制とタイアップすることによって、ソ連の太平洋軍事拠点のほとんどは米軍の攻撃対象下におかれていく。当然、ソ連側の対抗的核攻撃をも一挙に引き起こすものであることは明白である。

〝情勢によっては、核攻撃も必要〟（2月19日国会答弁）
核武装・核使用を主張する中曽根

中曽根は今や従来の〝ワク〟―憲法のワクそのものをふみこえた重大な軍事大国化・核戦争への道へとかさにかかった攻撃をエスカレートさせてきている。

＊ 沖縄の核攻撃基地化と並行し、中曽根は昨年来よりの米核巡航ミサイル＝トマホークの太平洋艦隊配備―日本全港湾への自由持ち込みを積極推進。

＊ こともあろうに広島平和祈念式典に出席し、原爆病院で苦しむ被爆者を前に「病は気からだ」と言い放った中曽根は、先にも「核兵器を使うか使わないかは保有国の勝手」と、自らの核武装・核使用の野望を述べてきた。

＊ その中曽根が遂に、自衛隊の軍事行動に関連づけて「必要なら核を使う」との具体的判断を示したことを決定的に重視し、怒りをこめて粉砕していかねばならない。すなわち「一%枠」突破との関連で国会答弁にたった中曽根は、今年2月19日「日米共同作戦中の米艦が核兵器を使った場合、日本が核戦争にふみだすことにならないか」との野党質問に対して「その時の情勢による。他に手段がなく、日米双方の艦艇が生きのびていこう、と必要な行為を行うことはある」と具体的に言明したのである。

事態はここまで進んでいるのだ。「一%枠」突破を含め、体制の危機にあえぐ戦争屋レーガン―中曽根の核戦争挑発を、今、野放しにしておいたら日本全土―アジア―世界を瞬時のうちに核の惨禍に叩き込む危険な時代に急速にのめりこんでいっているのだ。

三里塚―国鉄決戦の爆発で一日も早く反動中曽根をうち倒そう。